

市民活動センター

たちかわ通信



編集・発行

社会福祉法人 立川市社会福祉協議会 市民活動センターたちかわ
〒190-0013 立川市富士見町 2-36-47 Tel : 042-529-8323 Fax : 042-529-8714
【E-mail】 aiaivc@whi.m-net.ne.jp 【URL】 http://act.annex-tachikawa.com/

開所日・時間

月～金曜日 8:30～19:00

土曜日 8:30～17:15

日曜日・祝祭日はお休みです。

市民活動センターたちかわは、ボランティアやNPO・地域活動などあらゆる市民活動をサポートするセンターです。

2006.09 Vol.36

第8回 市民おもしろ大学開催!!

「夢描くミュージシャン 今、路上に一人の聴衆」をテーマに、立川まちおんの鈴木一廣さんとミュージシャンの片山篤志さん、アコジィのお二人から日頃の活動や音楽に対する想い、苦労話、そして、共感の持てる歌を聴かせていただいた。

「夢を持って一生懸命やっている人を応援したい」目を輝かせながら鈴木さんは言う。鈴木さんの話に胸を打たれた参加者からは、「立川を音楽で溢れている魅力ある“まち”にしたい」「今までただ横目に通り過ぎていた若者達に親近感を覚えた」などの感想をいただいた。

また、片山さんやアコジィのお二人の歌からは、「音楽の素晴らしさや楽しさにあらためて気付かされた」「兄のために作った曲が、近く結婚する娘のことと重なり目頭が熱くなった」「生きる力をもらった」「出演者の活動を応援したい」など、多くの感想をいただいた。

立川のストリートパフォーマンスはますます盛り上がっている。しかし、立川駅から延びる歩行者専用通路で、イベントを開催することは難しい。通路に人だけがいれば市民の安全を守れない。安全を守る警察の立場も理解した上で、「1%の可能性を広げるには市民の声が必要。イベントを行なうことで、迷惑も掛かるかもしれないが、立川という“まち”に関係する人すべての幸せに繋がるという認識を持ち、声を上げて欲しい。」と鈴木さんは言う。

「立川の“まち”を市民の力でもっと盛り上げ、音楽が溢れる魅力ある“まち”にしたい。」

出演者からの言葉と音楽には力が溢れていた。

立川まちおんの鈴木一廣さん(写真右)とアコジィのお二人。日頃から抱えている思いが溢れ出る!



30代から音楽を始めた片山さん。それがきっかけで立川に移り住んだ。

<<<今月号のもくじ>>>

第8回 市民おもしろ大学開催報告	P.1
学校での「市民学習」を地域と連携して	P.2-3
1.立川市教員研修を開催しました	
2.都立高校で「奉仕体験活動」が必修化	
情報コーナー	P.4-6
市民活動センターたちかわ	P.7
貸出し本のご案内	
市民活動センターからのお知らせ	P.8

学校での「市民学習」を地域と連携して

<その1> 立川市教員研修～福祉教育の実際～を開催しました

去る8月2日(水)、立川市総合福祉センターにて立川市教育委員会と共催で「教員研修～福祉教育の実際」を企画・開催しました。今回は、日ごろから学校の授業に協力をしている地域の方々(以下「協力者」)と協働して企画の段階から一緒に取り組みをしました。

市民学習と福祉教育を進める難しさ

初めに、「福祉教育」というと皆さんは何を連想しますか?学校での「福祉教育」は、総合的な学習の時間や道徳の時間に導入されることがあり、障害のある方や高齢者との交流プログラムなどが多く実施されます。「共に生きる」「生きる力を身に付ける」「相手の立場に立って考えられる子になって欲しい」などの学習目標が先生方からはよく聞かれます。

当センターでは、この様なプログラムを特に「福祉教育」とはせずに「市民学習(良き市民であることを学ぶ)」と呼んで、学校の他企業や地域活動なども対象にしています。内容も障害のある方や高齢者の分野に限らず、防災関係、まちづくり等と幅広く捉え、学校での福祉教育はその中の一歩と考えています。



協力者研修の様子。「障害がある方との交流」「ベビーとの外出」など各種プログラムを、生徒数や授業数に合わせてシミュレーション。

学校の福祉教育に協力する時には、できるだけ講演会形式より「体験型学習」を進めることを提案しています。ただ、学校の先生方に限らず、座学以外の「体験型学習」の進め方というのはトレーニングの機会があまり無く、まだ一般的な学習形態とはなっていません。また、福祉を学ぶというと車椅子体験やアイマスク体験だけやって終わり、という内容もよく見られ、ともすると障害のある方が「弱い、守ってあげるべき存在」等として捉えられて、当事者との交流が無いまま終了してしまうこともあります。

どんなメッセージをどんな方法で生徒に伝えていくべきか。今回の教員研修では、先生も実際に生徒になったつもりで協力者が作成したプログラムを体験してもらおうことになりました。

地域の協力者は「お客さん」ではない

今回の教員研修の目的は2点です。

学校に対してプログラムを企画・提案・評価で



アイスブレーキングのひとつ。体験型学習には欠かせない。これで参加者の緊張をほぐします。

きる人材を、地域の協力者から輩出する

教員研修を通じて、教員が総合的な学習の時間や授業の中で、プログラム作成ができるようにする

は「地域の教育力を上げる」と言い換えられるかも知れません。教員研修に合わせて、協力者は4月から準備を開始し、なぜ協力者が主体的に学校に協力をするのか、どういう子どもに育て欲しいのかなども話し合いました。その上で自分たちで学校に提供したい体験型のプログラムを立て、さらに学校の先生方からアドバイスをもらう、という作業を繰り返しました。先生からは「学齢に合わない」「伝えるメッセージが難しい」「小グループにすると教室が足りない」など、予想外の指摘もたくさん挙げられました。

迎えた教員研修当日には、市内小中学校を中心に14名の教員の参加と、地域に暮らす障害のある方や子育て中のお母さんなど、7名の協力者が一緒に研修を進めました。協力者が用意したプログラムの一部を、実際に参加者で実施し(「教員研修の流れ」参照)、その後参加者の先生方が、自分の受け持つ生徒達にどんなプログラムが提供できるかを考える時間を設けました。

先生の中には、障害のある方と接するのは初めてという方、「子育て」についての学習も福祉教育なのか等と驚く方もいました。この出会いと交

流も市民学習の大切な要素です。

研修を終えてのアンケートでは「福祉に対する考え方が変わった」「やってみないと分からないので体験できて良かった」「福祉とは私達がよりよく生きていこうとすることだと分かった」という感想がありました。同時に、予算や学校内で話し合う時間が足りないなどの困難も挙げられています。

地域の協力者と学校が共通のビジョンをもって

今回の研修では地域の協力者と先生が時間をとってコミュニケーションできたと思います。その中での実感として、地域の協力者と先生方では「福祉教育」を進める動機がそれぞれ違いますが、一緒に授業を進めるには「どんな大人に育てて欲しいのか」「どんなメッセージを伝えるか」等の共通のビジョンが必要だということです。学習の手法やスケジュール以前に、それを支える理念やビジョンを大人同士がしっかりと時間をとって話し合わないの良い授業にはなりません。

これは市民学習に限らず、地域と学校がいつも話題にするべきことではないかと思えます。地域の協力者も学校と一緒に活動をする時には、この点を忘れずに進めたいと思えます。

<8月2日・教員研修全体の流れ>

午前

アイスブレーキング「運命の人を探せ」
プログラム説明
各チームに分かれての体験学習（2時間程度）
「ベビーと一緒に外へ出よう」
「車椅子ユーザーとの交流」
「視覚障害がある人との交流」
昼食・・・グループごとに交流

午後

レクチャー（福祉教育で目指すものなどについて。30分）

グループワーク

午前中の振り返り プログラム作成

グループごとの発表



グループワークとその発表の様子。

<プログラムの一例> 印は活動の「意図」
「車椅子ユーザーとの交流」

出会いの場面

自己紹介 車椅子操作と介助の説明

お互いのことを知る。連帯感が生まれやすい自己紹介を工夫する。

交流の場面

建物周辺を車椅子で探検

車椅子ユーザーの目線で歩いて欲しい。学校内にどのような工夫があれば、車椅子でも通学できるか、考えてもらう。

振り返りシートの記入

私達の地域は誰もが住みやすいまちなのかどうか？を考える。

振り返りの場面

昼食を一緒にとるのも一つの手

どうすれば色々な人にとって暮らしやすい街になるか？交流を通じて感じたことを伝え合う。

<その2> 都立高校で「奉仕体験活動」が必修化

平成19年度から、都立高校で「奉仕体験活動」が必修化されます。

「奉仕」という言葉をここで用いることが適切なものか、また政治的な背景をどう解釈するか、などによって当然多くの意見が出ています。

加えて、「奉仕体験」というと、老人ホームなどで活動をするというイメージくらいしか浮かばない先生も多いのではないのでしょうか？

すでに様々な障壁が見えていますが、来年の必修化に当たり、どんな受け入れ先や活動が考えられるかをすでに近隣の高校と連絡を取り始めています。私達は「総合的な学習の時間」でもそうですが、市民学習として、生徒が地域の課題や多く

の大人との出会いを通して成長していくきっかけを作りたいと思えます。形だけ何かの活動をして終わり、というのは避けたいものです。

市民活動団体や皆さんの地域の団体で提供できるプログラムがあったら、是非お教え下さい。

アメリカの高校生の例 / 近隣に住む高齢者を訪問し、昔の話を録音した。それをテープ起こしし、歴史の一次資料として地元の図書館に寄贈するという社会貢献活動。傾聴のトレーニング、文章作り、マナーなど、結果的に多くのことを付随して学ぶことにつながる。

情報をお寄せください！ みなさまからのご意見・掲載情報をお待ちしています。詳しくは電話またはメールにてご連絡ください

情報コーナー

～イベント・講習・講座・ボランティア情報など～

ここに掲載されている情報の詳細に関しては、直接主催団体にお問い合わせください。

このコーナーは、市民活動やボランティア活動に関するイベント等の情報を毎月掲載しています。またこのコーナーへ掲載する情報も随時募集しています。掲載ご希望の方は毎月20日までにご連絡ください。

ボランティア・市民活動団体イベントカレンダー

開催日	イベント名	場 所	問合せ先
9月 1日 (金)	市民活動センター助成事業受付開始	総合福祉センター 2階	P.6 参照
3日 (日)	第4回子産み・子育て 多摩らんなぁ	くにたち市民芸術小ホール	P.4 参照
17日 (日)	ファーレぴかぴかアートプログラム	ファーレ立川	P.5 参照
	NPO法人 CEP・子どもひろば 不登校の子を持つ保護者のための講演会	女性総合センターアイム	042-528-6871
9月 30日 (土)	チャイルドラインたちかわ市民向け学習会	幸公民館(調理実習室)	080-5524-4601
10月 13日 (金)	ファーレ立川アートツアー	ファーレ立川	P.4 参照
26日 (木)	チャイルドラインたちかわ公開講座	女性総合センターアイム	080-5524-4601
29日 (日)	福生学園・あらたま寮 開設記念学園祭	福生学園内特設会場	P.5 参照

NPO・ボランティアグループのイベントや講座情報が一目でわかるカレンダーを作りました。
詳しくはコチラ http://calendar.yahoo.co.jp/skc_npovgnews

イベント・講習・講座

「出産・子育て応援イベント」

第4回子産み・子育て 多摩らんなぁ

多摩で活動する助産婦と多摩に住むママたちが「出産・子育てイベントを私達の住む多摩で！」と企画しました。お産やおっぱい、生涯にわたる女性の健康のことなど、助産婦と語り合ってみませんか？「助産婦」の正式名称は、平成14年に『助産師』となりましたが、「多摩らんなぁ」では、愛着のある『助産婦』を使い続けています。

日 時：9月3日(日) 10:00～17:00

場 所：くにたち市民芸術小ホール
(国立市富士見台2-48-1)

内 容：親子で楽しむコンサート／妊婦さん・ママ向けワークショップ／パパにもオススメ！トークショー／見本市・情報コーナー／助産婦コーナー／無料スリング講習会

参加費：入場無料

問合せ：080-3003-7233 (山田)

ファーレ立川アートツアー

1994年10月13日にオープンしたファーレ立川は12年を迎えました。これを記念し、ファーレ立川アートツアーを行います。この日しか見られない作品や、いつもは近くで見られない作品も中に入れて見られるなど、全作品(36ヶ国92人の作家による109点)をツアーガイドの説明を聞きながら見て歩くアートツアーです。秋の一日、パブリックアートを楽しみませんか？

日 時：10月13日(金) 13:30～16:30 雨天決行
集 合：13:20に『アイム』1階ロビー

参加希望者は、当日に現地集合して下さい。なお、グループ参加の方は、事務局まで申し出てください。

問合せ：ファーレ倶楽部事務局
☎042-535-1396 (中島さん)



情報をお寄せください！ みなさまからのご意見・掲載情報をお待ちしています。詳しくは電話またはメールにてご連絡ください

ファーレぴかぴかアートプログラム

ファーレ立川のアート作品が皆様に親しまれ、わが町と共存して行けたら良いと思っています。
ぴかぴかアートプログラムでは、アート清掃をしてアート作家を招きレクチャー&ワークショップを行います。今回のレクチャー&ワークショップにはファーレアート作家の藤原吉志子さんを予定しています。ぜひ参加してみませんか。

日 時：9月17日(日) 10:00~16:30
10:00 アイム5階第3学習室集合
10:30~12:00 アート清掃
12:00~13:00 昼食・休憩
午前、午後のアート清掃参加者は
昼食付き。
13:00~14:30 アート清掃
15:00~16:30
レクチャー&ワークショップ

講 師：藤原 吉志子氏
金属を型にとかしこんでつくる作家です。それを鑄造(ちゅうぞう)というのです。よく知られた動物や童話を楽しい意表をつく形で作る童話作家といえるでしょう。ファーレ立川アート作品「ウサギとカメ」もそんなほのぼのとした作品です。

対 象：小学生(保護者同伴)以上から成人

定 員：30名
その他：雨天の時は、アート清掃のみ9月24日に延期。14:30にアイム5F 第3学習室集合。
ワークショップのみ実施。
申込み：Faxにて申込み
締切り：9月13日
定員になり次第、締め切ります。
問合せ：ファーレ倶楽部事務局
☎042-535-1396(中島さん)

第12回 福生学園・福生あらたま寮 開設記念学園祭

舞台発表、作品展示、喫茶コーナー、模擬店、福東町会お神輿、よさこいソーラン、バザー等。
普段、私達が行っている作業や音楽をたくさん盛り込んだ様々な催し物を企画しています。
ぜひ、遊びに来てください。

日 時：10月29日(日) 10:00~14:30
雨天決行
場 所：福生学園内特設会場(福生市熊川1600-2)
問合せ：☎042-530-6936
(担当：林さん・三田村さん)
その他：ボランティアの募集もしています。
(ボランティア担当：直井さん)



ひと・モノ・募集

ファーレ立川 アートコンダクター養成講座

わが町ファーレ立川に共存するアート達を学び一緒に語りませんか？

対 象：高校生以上
定 員：30人程度(申し込み順)
日 時：9月27日(水) 19:00~ 講座説明他
10月 4日(水) 19:00~
パブリックアートについて
10月11日(水) 19:00~
ファーレ立川の作品について
10月25日(水) 19:00~ ツアー体験他
講 師：アートディレクター北川フラムさん他
場 所：女性総合センターアイム 5階
申込み：9月13日(水)までに氏名住所・連絡先を
Faxまたは電話でご連絡下さい。
申込み・問合せ：ファーレ倶楽部事務局
☎&Fax：042-535-1396(中島さん)

多文化共生情報ネットワークの 構築事業に参加しませんか？

たちかわ多文化共生センターでは今年4月より、「多摩地域における多文化共生の情報ネットワークづくり」プロジェクトを始めました。このプロジェクトは、IT技術を駆使し、様々な多文化共生推進活動を拡大していくことを目的としています。現在、共同作業者を募集しています。パソコンの得意な方、または、なじみのない方でも生活情報の収集など比較的簡単な作業もありますので、お気軽にご参加いただくようお願い致します。

問合せ：NPO法人
たちかわ多文化共生センター事務局
立川市曙町2-36-2 アイム5階
☎&Fax：042-527-0310
E-mail：tmc@poppy.ocn.ne.jp

情報をお寄せください！ みなさまからのご意見・掲載情報をお待ちしています。詳しくは電話またはメールにてご連絡ください

第19回Disney愛のつどい

日時：11月12日(日) 8:30～16:00 雨天決行
対象：障害のある方 無条件
ボランティア 18歳～60歳。体力に自信のある方。経験不問。
費用：障害のある方 無料/同伴者 ¥5,800
ボランティア ¥2,500
定員：100名(ボランティアは200名)
申込み：Fax：047-323-0133
E-mail：mt630809@nifty.com
受付期間は、9月24日～10月10日まで。
問合せ：☎090-5215-2403(タイドウさん)
その他：団体、お仲間での申込みも大歓迎です！詳しくは下記ホームページを。
URL：http://homepage2.nifty.com/odiat/

勉強を教えてくれる方募集

30歳くらい男性。「子どもの頃の虐待の影響で現在無学で働く為の資格や能力が身につけていません。また勉強に一人で取り組むことが出来ない状態ですが、学力を身に付けたいので、勉強を教えてください方を募集します。」ただ、今までの体験上、若い女性の方であれば抵抗無く勉強できそうとのこと。また、もし勉強を教えてくださいのが無理でしたら、学習の見守りという形で付き添って頂けると幸いです。

問合せ：市民活動センターたちかわ(担当：早川)

2級ホームヘルパー養成講座

受講生募集中!!

2級ホームヘルパー(訪問介護員養成研修2級課程)の資格とは、在宅で日常生活の援助を必要とする方にサービスを提供するための資格です。どなたでも受講可能ですので、是非お申し込み下さい。

日時：月火水木金コース
9月18日(月)開講～11月19日(日)修了式
火・木・土コース
10月19日(木)開講～1月7日(日)修了式
講義：やわらぎ・にんじん協議会 研修センター
・演習 (JR立川駅から徒歩5分)
実習：立川市、日野市、国分寺市等
費用：56,800円
(受講料50,000円、テキスト代6,800円)
締切り：9月11日(月) 17:00まで
10月12日(木) 17:00まで
申込み：最寄りの事業所まで、「講習の案内」を受け取りにお越しになり、申込み用紙に必要な事項をご記入の上ご提出ください。申込み多数の場合は、抽選となります。
問合せ：NPO法人 ケア・センターやわらぎ 本部
(立川市錦町2-3-1後藤ハイツ1階)
☎042-523-3552 / Fax：042-523-7077
(担当：寺脇さん、小松さん)

助成情報

市民活動センターたちかわ助成事業(後期)

市民活動センターたちかわでは市民活動団体を支援するため、団体の活動費などを助成する事業を行っています。

対象団体

市内に活動拠点が設置されているか、立川市民を対象に活動をする5人以上の会員などで構成されている団体。ここで言う市民活動とは、地域社会と関わりを持ち、不特定多数の市民を対象に社会的な課題に取り組む公益的な活動を指します。

対象事業

団体の結成及び1年間の運営にかかる経費
(団体の設立後3年間)

団体が市民に対して行なう助けあい、支えあい、交流活動または社会福祉に関する広報、普及活動に要する経費

社会福祉に関する調査研究活動に要する経費

団体の利用者の社会参加、健康保持、レクリエーションなどに要する経費

その他社協会長が適切と認めた活動にかかる経費
助成額

対象事業の は5万円以内、 は10万円以内。

受付期間

平成18年9月1日(金)～13日(水) 日曜日を除く

平日8:30～19:00 土曜日8:30～17:00

受付方法

本センターの開所時間内に申請書をご持参下さい

(開所時間については本紙の表紙を御覧下さい)。

審査結果

審査委員会で決定し、書面にて通知をします。

「計画している事業は審査の対象だろうか」「どのように申請書類を出したらいいだろうか」など、申請に慣れていない団体さんは不安が多いかと思えます。ご相談はいつでもお受けしていますので、ご連絡下さい。ご来所の際には予めご一報頂けると幸いです。

情報をお寄せください！ みなさまからのご意見・掲載情報をお待ちしています。詳しくは電話またはメールにてご連絡ください

市民活動センターたちかわ 貸出し本

～市民活動に関連する本を 多数そろえています～

市民活動センターたちかわでは、市民活動やまちづくりに関する書籍を少しずつ集めてきました。現在、およそ300冊。無料貸出しをしていますので、ぜひご利用ください。

その他に福祉や相談援助に関する本も300冊あります。

ほんの一例ですがご紹介します。

まちづくりワークショップの本

ひとりひとりの市民の思いはいろいろ
目標に向かって合意をつくっていくためには・・・

- ・ **ワークショップ**
/中野民夫著/岩波新書
- ・ **ファシリテーション革命**
/中野民夫著/岩波アクティブ新書
中野さんの本は入門書としてもオススメです
- ・ **参加のデザイン道具箱Part1-3**
/世田谷まちづくりセンター発行
- ・ **参加するまちづくり**
/大久手計画工房著/農文協発行
- ・ **「まなび」の時代へ-地球市民への学び-30人の現場**
/ワークショップ・ミュー編著/小学館発行
魅力あふれる30人の方を紹介

センターで定期購読している本

貴重なバックナンバーもあります

- ・ **季刊まちぼっと**
/特定非営利活動法人まちづくり支援東京ランポ発行
市民の「まちづくり」マガジン
- ・ **月刊住民流福祉**
/住民流福祉総合研究所発行
ご近所の底力をうばわないまちづくり
- ・ **NPOマネジメント**
/IIHOE「人と組織と地球のための国際研究所」発行

立川市内の団体が発行した本

- ・ **ユニットケアはいかにして創られてきたか**
- 至誠キートスホームの実践から
/至誠ホーム出版会編集/中央法規
特別養護老人ホーム至誠キートスホームの実践記録
- ・ **「ニート」支援マニュアル**
/工藤啓著/PHP研究所
特定非営利活動法人「育て上げ」ネット理事長工藤さんの著書
- ・ **児童養護施設物語 門はいつでも開いている**
/至誠学園編/筒井書房
児童養護施設至誠学園の実践記録
- ・ **ハッスル!「老健」**
/永嶋信晴著/ゆまに書房
老人保健施設わかばの実践記録

NPOに関する本

立ち上げようか迷っている方のための本も
立ち上げてから困っている方のための本も

- ・ **NPOがわかるQ&A**
/早瀬昇・松原明著/岩波ブックレット
NPOって何?が知りたい方のために
- ・ **一夜でわかる!「NPO」のつくり方**
/加藤哲夫著/主婦の友社
NPOの立ち上げを考えている方のために
- ・ **NPOの経営-資金調達から運営まで**
/坂本文武著/日本経済新聞社
組織マネジメントを意識したい方のために
- ・ **NPOが社会を変えられない5つの理由**
/せんだい・みやぎNPOセンター編
運営がうまくいかない!と悩んでいる方へ
- ・ **利益が上がる!NPOの経済学**
/跡田直澄著/集英社インターナショナル
非営利で継続することに不安を感じている!?
- ・ **完全マスター基礎からわかるNPO会計**
/特定非営利活動法人ボランタリーネイバース
発行/合同出版
会計実務を担当する方向けの分かりやすい本
- ・ **市民プロデューサーが拓くNPO世紀**
/大阪ボランティア協会編/ぎょうせい
12人の魅力あふれる人たちが登場



(図書コーナー)

総合福祉センターの2階です。
ゆったりとできるソファもご用意してます。
おもいおもいにお過ごしください。

持ち帰ってじっくり読みたいものがあれば、
1ヶ月まで貸出しOK!!
市民活動センターまで、お申し出ください。

ご協力ありがとうございます！

『市民活動センター たちかわ通信』を常設しているところ(下記の場所で受け取ることができます)

立川市社会福祉協議会・市内各公民館・図書館・福祉会館・学習等供用施設
フレンド書房・セイフー立川若葉店・モスバーガー立川高松町店・
トヨタ西東京カローラ立川富士見町店・レストランサラ・東京ボランティア・市民活動センター

一部地域に新聞折込をいただいています

YC読売新聞立川北部サービスセンターの皆様のご好意により、
読売新聞をご購読の方は折り込みにて配布されます。(栄町・高松町・曙町の一部)



市民活動センターたちかわの おすすめ活用法

ホームページ「市民活動WEBたちかわ」

登録団体はホームページのシステムを無料でご利用いただけます。講座のお知らせなど自由な更新が可能となっております。ぜひご利用を。



市民活動センターに登録しませんか？

登録していただくと市民活動センターの広報媒体を使い広く市民のみなさまに活動を広報できるほか、団体として貸室の予約が早く申し込める、印刷機が安く使用することが出来るなどのメリットもあります。毎年4月の更新です。

登録のご希望は市民活動センターまでご連絡ください。

Tel 042-529-8323 Fax 042-529-8714

Email aiaivc@whi.m-net.ne.jp

会議にイベントに…
是非ご利用ください！



貸し出しスペースについて

- ・ボランティアルームふじみ(立川市総合福祉センター内)
- ・ボランティアルームしばざき(立川市シルバー人材センター内)
- ・事務所前のスペース(活動センター前)

活動センター前では無線でインターネットがご使用になれます。

お申し込み方法

事前にお電話が来所にてお申し込みください。先着順とさせていただきます。
(登録グループは優先予約あり)

交通アクセス:

JR立川北口駅より徒歩15分、JR西立川駅より徒歩8分。北口バス停 乗り場、富士見町2丁目下車徒歩4分。

立川市女性総合センターアイム前発くるりんバス、南くるりん左回り乗車。『総合福祉センター前』下車徒歩0分。

平日は無料シャトルバスが立川駅北口バスロータリー交番前より9:50、10:30、11:10、11:50、13:10、13:50、14:30に出ています。

